

「ハイキングリーダー学校」(2023年9月30日～10月1日)開催趣旨について

全国ハイキング委員会

1、中高年というより高齢者登山のあり方を医学的側面から学び実践に生かす。

去る2月5日、石川県の山で75歳の男性が登山開始直後に**虚血性心疾患**で死亡した。何時間も汗をかき、心臓に大きな負担を与えた後の事故ではなく、素人診断でも事故者に病的な原因があったとしか考えられない事故だ。ということは通常健康管理を家族や所属会でしておれば防げたかもしれない事故ともいえる。今、登山会員の平均年齢は上昇の一途をたどり、特にハイキングクラブでは平均年齢が70歳を超えているところも珍しくない。医学の発達や新薬の開発等で平均寿命は上昇し、余暇をアウトドアに求める人口も増えている。

このような高齢者化社会の中で重要なことは「病気による事故」だけはゼロにすることである。そのためには「高齢者の体の仕組み」を正確に知ることである。「70歳過ぎてもまだまだ歩けるじゃないか。」などという生半可な結果論・感情論ではなく、なぜ歩けるのか?持病があったらどうするのか?安定的に歩くためには何をすればよいのか?などをアカデミックに解き明かすことである。今回のリーダー学校ではここに焦点を当て元奈良県立医科大学豊田准教授に講演をお願いする。

2、登山創立60年を2年経過し、**登山創立の趣旨や他の登山団体との違い**が薄れてきている。現在登山を支えている高齢会員はそのことを十分理解しているが、ここ10年余りに入会した比較的新しい会員の多くはこのことを十分に理解しているとは思えない。このことは比較的新しい会員の責任ではなく数十年、中には半世紀近く活動してきた高齢会員の責任でもある。

今、登山創立の趣旨や他の登山団体との違いを多くの後輩たちに伝えていく活動が組織の発展にとって極めて重要な時期となっている。この活動を強めることで会・クラブ活動の活性化や会員拡大へとつながる大きな手段となると考えている。

登山教室や清掃登山という半世紀前には登山しかできなかった活動については多くの登山団体が実施しているのが現状である。しかし、「登山の多様化と価値観」「平和と登山」「民主的な組織運営」などについては登山が他の登山団体大きく引き離しているといっても過言ではない。「登山の多様化と価値観」についてはいまだに少なくない登山団体が「ピラミッド型の価値観」、底辺に多くのハイカー・突端には精鋭の高所登山のクライマー」という概念にこだわっている。さらに「平和と登山」については「登山と政治は無関係」的な発想なのか、ロシアのウクライナ侵略も厳しくロシアを批判できないのが現状のようである。又、内部事情はよくわからないが、自分の会の会員の死亡事故について「その原因追及」に関与できないという訳のわからない組織運営も垣間見える登山団体もある。

今回のリーダー学校ではこれら登山の歴史・平和と登山について福岡県連盟会長・荒木さんに講演をお願いしている。

3、リーダー学校二日目は「スマホアプリを活用した安全ハイキング」の実技講座

今、登山にスマホは必須の装備となっている。電話機能のみではなく、写真も高性能化しており、特に登山用アプリは数件あり、それぞれが機能を競い合っている。今年度から山岳4団体共同運営となった「コンパス」はほとんどの都道府県とつながり、登山届の簡略化に大きく貢献をする方向となりつつある。今回は主管県連盟の案内で若草山周辺をハイキングする。その道中、全国理事の阿部さんを中心に「YAMAP」を使い、いくつかのポイントで活用、地図読みもしながら3時間余り講義する。もちろん阿部さん一人では多くの受講者に対応できないのでマニュアルを作成、3パーティで実施する予定。